

## 《神社とお寺の区別について》

先ず初めに、神社とお寺の区別がはっきりしない人も居られそうですので、比較してみましょう。

神社	お寺
神道（しんとう）という宗教の施設	仏教という宗教の施設
身の回りのあらゆるものに神様が宿ると信じられており、太陽神や水の神、火の神、岩、木、滝などさまざままで、「八百万（やおよろず）の神々」をまつる	古代インドで生まれたお釈迦様（しゃか）が開祖 仏陀（ぶっだ）ともいう宗派として浄土宗、浄土真宗、曹洞宗、天台宗、真言宗など
まつられている神様を「御祭神（ごさいじん）」という 亡くなった方を御祭神としてまつることもある ご神体として、自然界にあるものや動物が姿を変えたものなど多種多様	釈迦如来（しゃかによらい）、觀音菩薩（かんのんぼさつ）、阿弥陀如来、觀世音菩薩（かんぜおんぼさつ）など そのお寺で最も大切な仏様を「ご本尊」という ご本尊は主に仏像や掛け軸
神社で神様に奉仕している方を神職または神主と呼び、責任者を「宮司」という	お寺で仏様に奉仕している方を僧侶（一般的にはお坊さん）といい、長となる方を「住職」と呼ぶ
参拝は二拝二拍手一拝	手は叩かない
神前で唱えるのは「祝詞（のりと）」	仏前で唱えるのは「御経（おきょう）」

## 《神様は本当にいるのですか。》

神様は目には見えませんが、さまざまなものに神様は宿られているということを信じ、日ごろから祈りと感謝の心（気持ち）で生活すること、それが信仰するということです。

皆さんは、お正月の初詣（はつもうで）で神社にお参りし、一年間無事に過ごせましたと感謝し、これから一年間安全と健康で過ごせますようにとお祈りしませんか。

また、お守りを買ったことはありますか。お守りはご祈祷（きとう）されているため、そこの神社でまつられている神様の魂（たましい）が宿っていると言え、肌身離さず持っていればいつも神様のご加護が受けられるということです。

神様が居ると思うか居ないと思うか、お守りに神様が宿っていると信じるか信じないかは、皆さん的心（気持ち）の持ち方次第です。

《仏像は何体ありますか。》

仏像はお寺に鎮座（ちんざ）するもので、神社にはありません。

住吉神社では、神様をまつる建物として、本殿、脇宮2、弁財天、稻荷が有ります。

また、御神木が1本あります。

《お墓はありますか。》

お墓は亡くなつた方の遺骨（いこつ）を埋葬（まいそう）し、故人を弔うためのものです。

仏教ではお寺の敷地内、または隣接した場所にお墓を建てますが、神道では神社敷地内にお墓は建てません。もちろん、住吉神社にもありません。

《いつからありますか。》

奈良時代の天平十一年（西暦739年）に、物部道足（もののべのみちたり）が建て、住吉三神（すみよしさんしん）を祀り（まつり）ました。

のちに、南方約100mの地に俗称サンヤレ山という小高い丘のあった物部神社の祭神の櫛玉命（くしたまのみこと）、饒速日命（にぎはやひのみこと）を合祀（ごうし）しています。

神殿は、鎌倉時代の承久二年（西暦1220年）に浮氣源九郎貞勝が再建し、ついで江戸時代の寛永十六年（西暦1639年）に再度再建したと伝えられています。

住吉神社に祀（まつ）られているもの

住吉三神（すみよしさんしん）・・・海の神

表筒男命（うわつつのおのみこと）

中筒男命（なかつつのおのみこと）

底筒男命（そこつつのおのみこと）

櫛玉命（くしたまのみこと）

饒速日命（にぎはやひのみこと）・・・物部氏の祖

《どんな伝説がありますか。》

滋賀県選択無形民俗文化財になっている火まつりには、次の言い伝えがあります。

今から約800年前の鎌倉時代に、土御門天皇（つちみかどてんのう）が重い病気になられてなかなか回復しなかったそうです。

天皇の病気はこの地に棲む（すむ）大蛇が災い（わざわい）しているからだということで、大蛇を焼き払って退治したところ病気が治ったと言われています。

そこから、大蛇に見立てて造った松明（たいまつ）を燃やして、無病息災や家内安全を祈願（きがん）するようになりました。

《なぜ浮気にできたのですか。》

住吉神社は航海の神様で、舟が行き来するときの安全を守る神様です。

浮気が舟の行き来とどう関係するかは昔の地図を見るとその答えが分かります。

（現在の野洲川の略図）



（古代の野洲川の想像図）



古代の野洲川は、現在の栗東市辻のところでおおきく南流と北流に分かれていました。この時代は南流の方の川幅が大きな川で、その川が浮気内（南側）にあったサンヤレ山の麓を通り勝部・金森・下物（おろしも）へと流れ、琵琶湖に注いでいました。琵琶湖から木の舟が来たりして行き来していたそうで、舟の安全を願って浮気に住吉神社を建てたということです。

《建物の中はどんなふうになっているのですか。》

神様（ご神体、神札）をまつてある御社（おやしろ）の扉（二重扉のところは奥の扉）は、通常開けることはありません。



《神社では、どんな仕事をするのですか。》

年に数回、お祭りがあり、神前に神饌物（しんせんもの）をお供えし、宮司によるお祓い（おはらい）、祝詞奏上（のりとそうじょう）、参拝者による玉串奉納などの式典を行ないます。

神様の宿る場所を清浄に保つために、御社（おやしろ）の清掃、境内の除草や落葉かき、鎮守の森の草刈り、植木の手入れ、ゴミ拾いなどを日常的に行なっています。





《神社に人は住んでいますか。》

住吉神社に人は住んでいません。勝部神社の宮司に兼務してもらっています。

宮司には、お祭りの式典に来ていただいて、お祓い（おはらい）や祝詞（のりと）を  
あげてもらっています。

日常の奉仕は、総代や氏子で行なっています。